

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

第29回青年フェスタ

2月17日、18日、第29回青年フェスタが箕面観光ホテルで開催されました。フェスタ全体の参加者は、2日間のべ450人と盛況で、大障教からも17分会35人が参加しました。

学級づくりの「三点セット」

1日目の全体会では、制野俊弘さんと和光大学准教授が「冷たい夜こそ空を見上げて」と題して記念講演を行いました。制野さんは昨年の夏に大教組青年部が「東北ツアー」を行った際に、大変お世話になった方で、東日本大震災の時には宮城県で中学校の教員をされていました。



講師の制野俊弘さん

講演では、学級づくりの基

本として、班で順番に回す『班日記』基本は認める「誉める」「励ます」を大事に赤を入れ、「助言する」「質問する」「忠告する」に進展させる、保護者間で回す「子育て日記」(保護者が書かれた分量と同じだけ返事を返す)、学級通信(と)を織り交せて綴り、必ず帰りの会で読み上げる)の「三点セット」を実物と共に紹介してくださいました。

また、制野さんは、子どもや保護者の作文の紹介と合わせて、NHKで特集された『命とは何か』を問う授業の映像を流し、こんな子どもたちが目の前にいることが幸せでありのままの子どもたちが愛おしく、本当に大事なものは何かを語り合える学校であることの大切さを語りました。

円卓を囲んでゆったり交流



「肢体」の分科会

レポート交流会では、特別支援教育を3つの講座に分け、大障教からは5人がレポート発表しました。参加者の中には、フェスタの後で組合員になつてくれた人もいます。

「知的」の分科会は、小学部での学級・学年運営(生野支援学校)、「愛着障害の生徒と関わって(西浦支援学校)の二本のレポート発表がありました。支援学校だけでなく、府内支援学級からの参加もあり、レポートに共感の音が寄せられました。

「肢体」の分科会は、MY Rule(先生として私としてどうでありたいか)、「藤井寺支援学校」分科会(ことだらけの支援学校1年目)、「西淀川支援学校」感覚と音楽の間で、「堺支援学校」の3本のレポートを受け、全員で自己紹介をしたあと、2グループに別れて感想交流や悩みを交流しました。

夕食交流会では、大障教は2つの円卓を囲んでゆったりと交流することができました。夜は二次会や温泉を楽しみました。

2日目の実技講座も、それぞれが2つの講座を選び、明日からの実践の素材集めをしました。今年も学びつながらの多いフェスタとなりました。

参加者の感想です！

2回目の参加でした。今回はレポーターをさせていただきました。報告のまとめ方や話し方は大変勉強になりましたし、何より自分の考えや想いを言葉にして発する経験をさせていただけることが大変有難かったです。来年も参加しようと思います！

様々な学校の先生方と話すことができ、非常に有意義な時間でした。視野が狭くなりがちな所も、意見を頂くことで、「こういう考え方があるんだな」ということができました。参加できて良かったです。ありがとうございました。

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



自衛隊の憲法改正推進本部が、戦力不保持と交戦権否認を規定した9条2項の改定をめぐり、党内意見の取りまとめに入っています。2月28日に開かれた推進本部の会合では党内から提案された2項を残して自衛隊や自衛権を書き込む案、2項そのものを廃止する案が紹介されました。

この後、3月11日以降に開かれる予定の次回会合から条文案の検討を行い、自民党の党大会(3月25日開催)で改憲案を決定するとしています。まさに問答無用で改憲を推進する構えです。

自衛隊は、災害時の救援活動など、日本国民を守るだけの組織ではなくなりました。戦争法の強行成立によって、「できない」とされてきた、米軍の艦船や航空機の「防護」や、食料・燃料・武器の補給などの軍事行動も行えるようになっていきます。

今は9条2項が壁となり、海外で武力行使を目的にした戦闘に参加することはできません。しかし、法律には後からつくった法律が前の法律に優先するという原則があります。わざわざ9条に自衛隊を書き込めば、自衛隊は1項・2項を超える存在となり、無制限の武力行使が可能になると、多くの法律の専門家は指摘しています。「何も変わらない」と国民をだまして9条に「自衛隊」を書き込むなど、自衛隊員にとっても、国民全体にとっても危険の上なアイデアです。

「毎日」2月26日付が行った世論調査によると、「年内に改憲案を(発議)する必要はない」という意見は50%を占めました。9条があったからこそ、戦後日本の平和が守られてきたという声は、今も根強いものがあります。

青年の主張に会場いっぱいの拍手

第5回おおさか学びの場交流会

.....
 1月27日、第5回おおさか学びの場交流会が生野区民センターで開催され、170人を超える参加者で会場は熱気につつまれました。大障教からも司会等の要員を含め8人が参加しました。

胸を張り、自分の思いを堂々と表現する青年たち

午前の全体会の「青年たちの舞台」では、シユレオテによるダンス、生
 活訓練つみきによる劇「かさじぞう」、
 たんぼ福祉作業所・やんぐ塾による
 ソーラン節、ぼぼろスクエアによる群



フィナーレで踊る青年たち

読・花笠音頭と、元気いっばいの出し物が続きました。

その後の「青年の主張」では、15人の当事者が「悪いことを考える気持ちをおさえて、少しでも早く安定した自分に近づきたい」「家族が支えてくれたおかげで20歳になりました。いろいろな迷惑をかけたけど立派な大人になりました」など、決意や思いを熱く語り、それぞれの発表や歌、ダンスに、会場からは大きな拍手が続きました。実行委員長・小畑耕作さん(大和大学)からのインタビューでは、「好きなお酒は?」「お父さんやお母さんに一言」などの質問に、「僕は牛乳が好きです」「お母さんに服を買ってあげたい」などステキな答えが飛び出し、会場は笑いと拍手につつまれました。

胸をはって自分の思いを堂々と表現するみんなの姿に胸が熱くなるとともに、高等部を卒業した後、学びの場で仲間たちと過ごす時間があるからこそ、こんなに立派に自分の考えを述べることができると思いました。



自分を出せる安心できる仲間の存在が大切



第1分科会の様子

午後からは3つの分科会「専攻科や自力通所の学びの場の実践」「比較的障がいの重い青年を中心とする学びの場の実践」「家族で学び合う青年期の学びと余暇」と、4つの青年セミナーに分かれて交流しました。

第1分科会では、障害のある青年の学びの場ぼぼろ

スクエア(自立訓練事業所)から、入学当初は登校が難しかったある学生の2年間の変化についてレポート報告がありました。また、やしま学園高等専修学校専攻科から特別活動のとりくみのレポートがありました。高等部を卒業後、新しい環境に入り自分たちのペースで失敗もしながら学び合い、成長していく姿が語られました。

いずれのレポートからも、自分を出せる安心できる仲間があること、失敗しても自分たちで立ち上がっていくために指導者はしなやかに組んで答えを示さず待つこと、といった大切な観点が示されました。のびのび



第3分科会は父母が中心でした

と学び、自信をつけ視野を広げていく学生たちの様子の報告に、参加者からも多くの共感の声があげられました。

全国障害児学級・学校交流集會に参加して(感想その6)

立ちどまって考えることの大切さ

学習交流集會に参加して、今の教育での問題点がはつきりして、自分が日々の中でモヤモヤしていたことが明らかになりました。役に立つ人間だ

ておかしい。おし進められていることに立ちどまって考えることの大切さを改めて感じました。また、全国の仲間の実践を聞いて、自分のクラスや学年の子どもと重ねて、自分もがんばろうと元気になりました。昨年

は参加できなかったのですが、今年参加できてよかった。また、来年も勉強したい、と思いた。 (枚方支援学校分会 佐々木起美子)